科学研究費補助金研究成果報告書

平成23年6月1日現在

機関番号:32658

研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2008~2010 課題番号:20580248

研究課題名(和文) カリフォルニア稲作における日本人移民の役割とホスト社会に関する研究

研究課題名(英文) The Role of Japanese Immigrant and the Host Society in California

Rice Industry

研究代表者 立岩 寿一

立岩 寿一(TATEIWA Toshikazu)

東京農業大学・国際食料情報学部・教授

研究者番号:10192634

研究成果の概要 (和文): 本研究では、動産抵当証書から、20 世紀初冬から北カリフォルニア の稲作に関わった移民日本人の氏名、借入額、資金提供者、ビジネスパートー名を明らかにで きた。それにより 20 世紀前半の移民日本人が地域社会に定着していく要因の一つを明らかに出 来た。また土地所有者台帳、地図から、移民日本人に土地を貸与していた土地所有者名、経営 場所を特定でき、その特徴を明らかにした。

研究成果の概要 (英文): In this study, we could show the name of Japanese immigrant, the amount of debt, the name of lender, the name of business partner. By this study, we also showed the important factors of accommodation of Japanese immigrant for rural communities. And the name of landowners, place of rice farming are showed.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計	
2008 年度	1,400,000	420,000	1,820,000	
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000	
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000	
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000	

研究分野:農業経済学

科研費の分科・細目:農業経済学

キーワード: 移民稲作、移民農業、移民定着、カリフォルニア稲作、アメリカ農業

1.研究開始当初の背景

カリフォルニア州のアジア系移民史研究 は 1980 年代後半から中国人移民の社会・経 | 研究した Archie McDonald や Sandy Lydon,

済状況を研究した Sucheng Chan, 北カリフォ ルニアの日本人移民の地域社会への融合を

Stephen、S. Fugita 等の日系アメリカ人の研 究,移民の全体像に迫る David J. O Brien の研究, 日系社会総体に関する Japantown Task Force の研究等によりすすめられてきた。 しかしこれらの研究は個人史、家族史の研究 が中心で資料面でも内容も農業史と移民史 を統合した研究はほぼ無い。また日本では矢 ヶ崎典隆の研究があるが、移民による農業経 営を資金確保、土地確保、技術移転等の視点 からは解明していない。また日本においては 坂口満宏等による移民政治史の研究や高橋 幸春、佐渡平、飯野正子等の聞き取り調査に よる研究が展開されている。しかし総じて日 本におけるアメリカ移民研究は、坂口満宏、 箕原俊洋や粂井輝子等の政治史、外交史、社 会史等の視点からの研究が中心で、農業史と 移民史の統合という視点からの研究は極め て少ない。

カリフォルニア稲作史と移民史の統合という研究視点からの研究は、始められた段階で残念ながら研究の蓄積はほとんどない研究状況である。現在でもこの状況は続いており、農業史と移民史をリンクさせカリフォルニア農業業(稲作)の発展過程を明らかにすると言う研究手法による研究は極めて遅れている。

2.研究の目的

本研究はアメリカ農業史と移民史の統合 という視点から 20 世紀初頭 (1900~1920 年 代)の日本人移民とホスト社会(移民先社会) との資金、農地、技術、移民出身地のバック ボーン等を通した多様な関係の実像を、カリ フォルニア州の稲作を例にとり明らかにし ようとする研究である。それにより、カリフ ォルニア稲作の発展がどのような人的国際 関係と移民社会関係により形成されたかを 明らかにし、またアメリカ社会と日本人移民 の融合、融和がいかにはかられたかを解明す るものである。19世紀末から20世紀初頭に 本格化した日本人のアメリカ移民は、当初の 学生、商社員等の移民から一般の日本人の移 民へと変化していった歴史でもあった。一般 日本人移民は、建設現場や林業などへの従事 から、その後次第に地方の農業労働者や農業 経営者となり、都市ではスモールビジネス経 営者となっていく。そして地方への定着がな されていくのであるが、それはアメリカ農業 の発展と移民の定着とが一体となった発展 という側面を持っていた。また 1912 年に始 まるカリフォルニア商業的稲作では、当初か ら大規模経営として開始され、商業的稲作開 始時から日本人移民が関わり、経営も大規模 であった。

ここにアメリカ農業史と移民史の統合という本研究の独創的特色がある。当地では1912年に商業的稲作が開始されたが、当初か

ら多くの日本人移民が関与し大規模稲作経営を展開していた。この大規模稲作経営を展開していた。この大規模稲作経営には巨額の資金と農地、労働力や水の確保が必要だが、移民一世達にはその確保ができずホスト社会の人々と契約を通し資金を通りでは技術移転に資金をでは技術移転に対関係、巨額資金借入の共同の関係、巨額資金に農業史と移民との明究が必要となる理由がある。とのような研究を蓄積することで、21世紀会の対応の構築についても貢献できる。

3.研究の方法

従来の研究の遅れを埋めるため、現地での 動産抵当証書と土地所有者台帳および土地 所有者地図、インタビュー、移民送り出し地 域調査等からから、誰が、いつ、誰と、何処 で、誰から資金と土地を借り、稲作経営を行 っていたかを確定し、利子率や借入条件など を分析し、移民日本人が現地の地域社会に定 着していく過程を明らかにする。それにより、 カリフォルニア稲作の発展がどのような人 的国際関係と移民社会関係により形成され たかを明らかにし、またアメリカ社会と日本 人移民の融合、融和がいかにはかられたかを 解明する。そのことによって、移民の地域社 会への融合の過程と、ホスト社会への統合過 程が判明する。さらに言えば、国際化社会に おける移民の他社会への融合の条件が明ら かになる。

このような研究により、従来、オーラルヒストリーや新聞記事、インタビューに頼っていた当時の移民日本人の生活実態や人間関係、地域社会との関係が、経済的・社会的関係として公的資料により解明されることになる。そしてこのような手法は、今後の日本人移民史研究、ひいては全体的な移民史研究、農業史研究に新たな研究方法をもたらすことになると考えられる。そのため、資料の所在や閲覧の方法、確認の方法をできるだけ詳しく発表し、今後の研究者への情報提供としたい。

4. 研究成果

平成 22 年度までの研究により、次のような研究成果をあげてきた。

まずインタビュー成果であるが、当時の 商業的稲作経営にかかわっていた二世お よび稲作経営一世の子供たち8名を探し当 て、当時の経営の在り方、土地確保の方法、 日本の稲作技術との関係、稲作経営にかか わる人的関係、資金確保の方法、販路確保 の方法などについての資料を収集した。こ れらのインタビューテープのコピーは、本 人の許可をとれたものについては、カリフ ォルニア大学バークレー校東アジア図書 館に寄贈し、後進の研究者が資料とできる ようにしている。

稲作経営にかかわった移民日本人の氏 名、ビジネスパートナー、経営場所住所、 資金確保相手などについては、移民日本人 の稲作経営が多かった Glenn, Butte, Colusa, Yuba, Sutter の各郡の登記事務所 に保管されている動産抵当証書を 1912 年 から渉猟し、多くの証書を収集した。その ことにより、当時の移民日本人稲作経営は、 他のアジア人移民およびヨーロッパ系移 民とほぼ同じ条件で土地を確保し、資金を 確保していたことが判明した。日本人排斥 が次第に強まる 1910 年代にも、その条件 は変わっていない。むしろ、第一次世界大 戦時には積極的に移民日本人への貸し出 しがはかられていた形跡もあった。ただし、 土地所有者の解明については、資金提供者 と異なる場合が多く、別の方法での解明が 必要であった。

また、移民日本人の稲作経営の場合、当 初はビジネスパートナーが頻繁に交代し、 毎年のようにビジネスパートナーを探し て経営していたこと、しかし次第にビジネ スパートナーが確定し、移民日本人間の安 定的関係が築かれていったこと、1910年代 後半には、出資者を募り株式会社形態の移 民日本人稲作経営が登場し、それが主流と なって移民日本人稲作経営が展開したこ と、新規参入者は個人のビジネスパートナ -関係で稲作を開始し次第に株式会社形 態をとっていったこと、当時は移民日本人 に土地所有権がなかったため、二世の名前 による会社の設立だったり、一部の株式を 現地の弁護士などに保有してもらい、土地 の確保や会社を設立していたこと、最大で は 8000 エーカー以上の経営を実現してい たこと、などが明らかになった。

このような動産抵当証書による「誰が、いつ、誰と、何処で、誰から資金を借り、稲作経営を行っていたか」の確認の後、ではその土地がどこにあったか、の確定は、Plat 及び土地売買リストから解明する方法をとった。この方法は膨大な時間がかかるものであるが、カリフォルニア商業的稲作開始時からのいくつかの経営について解明することができた。

この方法は、Colusa 郡では 19 世紀からの土地所有者地図があり、それぞれの土地所有者の所有地が図面化されている。そのため、この地図から土地所有者を確定でき資金提供者との関係や移民日本人稲作経営者との関係を考察できる。下記の写真がそれである。

この方法を移民日本人稲作経営が行われていた土地で繰り返すと、移民日本人の誰が誰とビジネスパートナーを組み、誰から土地を借り、誰から資金を借り、どのくらいの規模で稲作経営をしていたかが明らかになるのである。

その結果、移民日本人への土地提供者は 地域の大土地所有者であり、毎年、その大 土地所有者の土地を借りていることが多 かったこと、土地開発会社からの借り入れ も多かったこと等が明らかになった。

また、移民日本人の稲作経営は、1915年 頃から、同邦人からの小規模資金を集めた 会社形式をとることが多かった。その点に ついて、最初に登場した California Rice Company の設立経緯とその株主 (ビジネス パートナーでもある)の具体的メンバーを 明らかにした。この稲作会社は、1915年に 始めて公式書類たる動産抵当証書に登場 した。そしてそのメンバーはその後、次々 と独立して別の稲作会社を設立し、移民日 本人の小規模資金を集めるとともに、現地 の株主を取り込んで法的制約を払拭して いく。本研究では、北カリフォルニアの稲 作郡におけるその過程を、各年の移民日本 人稲作会社の名称と株主、経営場所、経営 面積などの別に解明し、特に Colusa 郡と Butte 郡におけるその展開過程を分析した。

さらに、1910年代末から20年代の日本人排斥の強まりと第一次世界大戦後の経済恐慌により、移民日本人稲作経営は壊退的打撃を受け、ほとんどが稲作から撤退していく。他の現地稲作経営が第一次世界を譲るを乗り切り、相対的安定期にも移っていたとに比するとしていたとは大きな違いを見せていたButte Rice Company等の移民日本人稲作経営の実態を分わってとにはならないが、当時その経営に関わってといたこ世へのインタビューを繰り返とといた。そこでの成果は、今後さらにまとのである。

このような研究成果は、従来の日本人移 民の研究と比較すると、現地資料に重点を 置き、ホスト社会の公的資料から、移民日 本人のホスト社会への定着過程と彼らが 果たした社会的役割を明らかにしようと している点において、新たな視点と方法を 提示したものである。

本研究に示される移民史と農業史をク ロスさせた研究は、特にアメリカにおける 日本人移民を対象とした研究は、1930年代 の日米関係の悪化とともに資料そのもの が消去されたり、移民日本人の「強制収容 所」への収容で資料が無くなっている。早 急な研究の充実が必要となっている。

添付資料

図1 Butte郡Platの例



図2 土地売買リスト(販売者リスト)の例

2 Thomas Mary Letal 3 Bonk of Tehana 122 4 Colm Frank 171 6 Kirka Usaph 184 9 Hooks Park 185 18 Miller Usaph 185 18 Franklin Fred 317 18 Franklin Fred 318 19 Craig, Esther M. 318 20 Certis Celia R. 818 21 Craig, Esther M. 318 22 Certis Celia R. 818 23 Ware Berthardkay 18 24 Biggs Ed F. 25 Murphy Rew. R. 26 Barmann H.W. R.	14. 142 Ope. 3	Block Land Value 10 15-30-35 30		CHE
3 Thomas Mary Latal 3 Bank of Techana 42. 3 Bank of Techana 42. 5 Colm Frank 12. 6 Kirkac Asseph 12. 6 Kirkac Asseph 12. 6 Miller Asseph 12. 16 Miller Asseph 12. 16 Miller Asseph 12. 16 Miller Asseph 12. 16 Miller Asseph 12. 18 Melant Asha 50. 18 Melant Asha 50. 18 Melant Asha 50. 18 Franklin Fred 3.7 18 Franklin Fred 3.7 18 Franklin Fred 3.7 18 Franklin Fred 3.7 19 Craig, Esther M. 31. 20 Certis Celia R. 31. 21 Craig, Esther M. 31. 22 Certis Celia R. 31. 23 Mars. Bertharthy 13. 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R.W. R. 26 Barmann Lt.W. R.	8Ac. 3 rt 3.4. 5A. 9	15-30-35	- 2	
3 Bank of Tehoma 62 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	+ 3.4 5A. 9	30		
S Colm Frank 171 8 Kirkac Assept 181 9 Kirkac Assept 181 9 Hooks farmat Co His 10 Miller Assept 181 10 Franklin Fred 317 11 Graig Esther M. 318 21 Cartis Celia A. Bu 22 Cartis Celia A. Bu 23 Ward Bertharthay 18 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy R. W. R 26 Bormanntt-W. Ra	+ 3.4 5A. 9			
S Colm Frank 17/ 8 Kirka Loseph 18/ 2 United Bk. Invot G 18/ 8 Hooks David Rose 10 10 Milled Bk. Invot G 18/ 8 Hooks David Rose 10 10 Milled Bk. Invot G 18/ 10 Milled Roke 18/ 11 Milled Roke 18/ 12 Grant Factor 18/ 12 Grant Ford Mas A.A. 13 Grant Ford Mas A.A. 14 Craig Esther M. 31/ 12 Crotis Colig A. Roke 14 Craig Fother M. 31/ 15 Crotis Colig A. Roke 16 Biggs Ed. F. 17 Grant Gold A. S.A. 18 Mired Bethar May 15/ 18 Biggs Ed. F. 18 Biggs Ed. F	5A. 9		3	
6 Kirkec boseph Pa 2 Child Bk Inst Q 114 8 Hook, Parid, Rose 10 9 Miller boseph Ve 160 10 Miller boseph Ve 160 10 Miller boseph Ve 160 11 Miller boseph Ve 160 12 Melant Akh St. 13 Franklin Fred 317 14 Misca A. S. 15 Franklin Fred 317 16 Foodmoon, E. J. 17 Graig, Esther M. 31, 19 Craig, Esther M. 31, 20 Certis Celia A. 31, 21 Craig, Esther M. 31, 22 Certis Celia A. 31, 23 Mars. Bertharthay 16, 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R. W. R. 26 Bormann H. W. R.				4 CHE
2 United Bk. trust @ 112 8 Hooks, Parrid, Rose 40 9 Willow, Sosph Jon 160 10 Willow, Sosph Jon 160 11 Willow, Sosph Jon 160 12 Metaoff, Akah 162 13 Trank Jo. Frost 317 14 Willow, A. S. 15 Briggs Ed. F. 16 Espinson, E. J. 17 Cordl. Pater 18 Brad ford, Miss A.A. 19 Craig, Esther M. 316 20 Curtis Colig A. Put 21 Craig, Esther M. 316 22 Curtis Colig A. S. 23 Ward. Bethar May 15 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, Rev. A. 26 Bormann H. W. B.		30		CHI
o Hooke David. Rose. No. 18 No		30-35		6 CH
o Miller Joseph Jr. 160 10 Miller Joseph Jr. 160 10 Miller Jr. 150 11 Melan J. L. 150 13 Fenklin Fred St. 13 Fenklin Fred St. 14 Miskae. A. S. 15 Briggs Ed. F. 16 Robinson E. J. 17 Grell Peter 18 Brad Peter 19 Craig, Esther M. 316 20 Curtis Celia A. S. 21 Craig, Esther M. 316 22 Curtis Celia A. S. 23 Ward. Bethar May 15 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R. W. A. 26 Bormannt J. W. A.		40		
10 Milain J. L. 156 11 Milain J. L. 156 12 Metaoff Relah 13 Tranklin Tree 317 14 Milker P. S. 15 Biggs Ed. F. 16 Robinson E. J. 17 Graff Peter 18 Bradford Mas A.A. 19 Craig, Esther M. 318 20 Certis Celia A. S. 21 Craig, Esther M. 318 22 Certis Celia A. S. 23 Ward Bethar May 13 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R.W. A. 26 Bormanntt-W. B.		35		9 N
18 Melcaff Abh 182 18 Melcaff Abh 182 18 Melcaff Abh 182 18 Merch 19 Fred 317 18 Megac A. F. 18 Ecologo Ed. F. 19 Craig, Esther M. 318 20 Certis Celia A. Ru 21 Craig, Esther M. 318 22 Certis Celia A. S. 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R. W. Ra 26 Bormanntt-W. Ra 26 Bormanntt-W. Ra		33		10 CF
12 Meleoff Adob 186. 13 Franklin Fred 37. 14 Mi Rac A. 15 Biggs Ed. F. 16 Robinson, E. J. 17 Gredl Peter 18 Brad ford Mis A.A. 19 Craig, Esther M. 31. 20 Curtis Celia A. A. 21 Craig, Esther M. 38. 22 Curtis Celia A. S. 23 Ward Bethar May 15. 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R.W. A. 28 Bormanntt-W. Ba	1 Ac 13			
13 Franklis Fred 317 14 MT Rac. A. S. 15 Briggs Ed. F. 16 Robinson E. J. 17 Grell Peter 18 Bradford Mis R.A. 19 Craig, Esther M. 31. 20 Certis Celia A. Ru 21 Craig, Esther M. 3. 22 Certis Celia R. 23 Ward. Bertharthy 13 24 Briggs Ed. F. 25 Murphy, R.W. R. 26 Bormanntt-W. Ra				
M MSRae A. S. S. Blogs Ed. F. S. Blogs Ed. F. S. Blogs Ed. F. S.		30		12 C
15 Bings Ed. F. 16 Robinson E. J. 17 Grall Peter 18 Bradford. Ms A.A. 19 Carig. Esther M. 20 Certis. Celia A. 21 Craig. Esther M. 21 Craig. Esther M. 23 Ward. Bethan May 24 Bings Ed. F. 25 Murphy, R.W. 26 Bormanntt-W. 26 Bormanntt-W. 26	1 14-1			10
16 Robinson, E.J. 17 Grall Peter N. 18 Bradford Mis A.A. 19 Craig, Esther M. 31. 20 Certis Celia A. Ru 21 Craig, Esther M. 318 22 Certis Celia A. S. 23 Ward, Bethar May 13 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy, R.W. Ru 26 Bormanntt. W. Pa	E+ 10	30		14 C
17 Grell Peter 18. Brad Peter 18. Brad Ford, Mas A.A. 31. Craig, Esther M. 31. 20 Curtis Celia A. Pu 21. Craig, Fathor M. 318. 212 Curtis Celia A. S. 23 Ward. Betha May 15. 25 Murphy, R.W. A. 28 Bormann. H.W. Pa				16 C
18 Bradford M. S. A.A. 19 Craig Esther M. 31, 20 Certis Celia A. Ru. 21 Craig Esther M. 318 22 Certis Celia R. S.L. 23 Ward Bethar May 15 24 Biggs Ed. F. 25 Murphy R. W. R. 26 Barmann H. W. Ra	W# 22	15-2		
19 Craig, Esther M. 31, 20 Certis Celia A. Ru 11 Craig, Esther M. 318 12 Certis Celia A. S.L. 13 Ward. Bethar May 13 14 Biggs Ed. F. 15 Murphy, R.W. A. 16 Bormann. H.W. Pa	W. 22			17 0
20 Curtis Celia 19. Pu 21 Craig. Esthor M. 318 22 Curtis Celia A. S.E. 23 Ward. Beitha May 15 24 Biggs Ed F. 25 Murphy. R.W. A. 28 Bormann. H.W. Pa		3.		19 €
21 Craig. Esther M. 318 22 Certis. Celia R. S.E. 23 Wards Berthar May 15 24 Biggs. Ed. F. 25 Murphy. R.W. Ba 26 Bormann H.W. Ba	8 Ac. 24	3	5	190
22 Cortis Colis A. S.L. 23 Mard. Berthar May 15 24 Biggs Ed. F. 25 Morphy R.W. A. 26 Bormann H.W. Pa	T 23-2	+ 3	5	20 0
22 Cortis Colis A. S.L. 23 Mard. Berthar May 15 24 Biggs Ed. F. 25 Morphy R.W. A. 26 Bormann H.W. Pa	At. 23	3 3.	5	210
23 Ward Berthan May 15 24 Biggs Ed F. 25 Murphy R.W. R. 26 Barmann H.W. Pa	-4 22	2 3	5	22 0
24 Biggs Ed. F. 25 Murphy. R.W. B. 26 Barmann. H.W. Pa	8Ac. 27	1000	5	23 0
25 Murphy. R.W. Pa 26 Bormann. H.W. Pa	2.	1	-	24
26 Bormann. H.W. Pa	Bet 27			25
I RECORD AND THE PROPERTY OF T			5	
122 0 1/ 1 - 11 0	+ 25-3	3	35	26
27 Gallagaher, E.M. 31	OA:36		35	27
28 Persons, Dorothyetal 20	3.5		3.5	28
29 Maxwell J. P.			35	29

5 . 主な発表論文等

平成 22 年度までの募集史料、インタビュ ーを整理中であり、現在学会誌(「農村研究」) にその成果を投稿している。

6. 研究組織

(1)研究代表者

立岩 寿一(TATEIWA Toshikazu) 東京農業大学・国際食料情報学部・教授 研究者番号:10192634

(2)研究分担者

(3)連携研究者 無